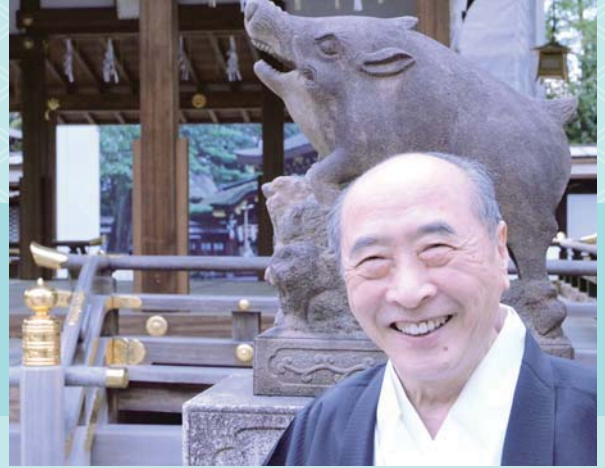


第23回 京都御苑ずきの御近所さん

護王神社 宮司 文室 隆紀 様



護王神社の拝殿前に、狛犬ではなく
雌雄一對の狛イノシシが出迎えてくれます。
その訳を教えてくださいませんか？

護王神社の御由緒の話になりますが、奈良時代、女帝・称徳天皇の時代に弓削道鏡ゆげのどうきょうという僧がいました。道鏡は、天皇に近い立場を利用し、八幡の神の教えと称して「道鏡をして皇位に即かしたまはば、天下太平ならん」という御神託があったと天皇に嘘をつき、その座を狙いました。称徳天皇は、一般の臣民が天皇になったことはなく、どうしようかと悩んでしまいます。そこで、官僚であった和氣清麻呂公わけのきよまるこうを呼び、神託の真偽を確かめるため、九州の宇佐八幡へ派遣させました。清麻呂公が宇佐八幡で受けた御神託は、「我が国は開闢以来、君臣の分定まれり。臣を以って君と為すこと未だあらざるなり。天津日嗣は必ず皇緒を立てよ。無道の者は速やかに除くべし」というものでした。要するに、天皇の位には天皇の血統の人を立てなければならないということで、それを称徳天皇に報告しました。

和氣清麻呂公に天皇の位を阻止された道鏡は怒り、清麻呂公には別部穢麻呂わけべのきたなまる、姉の和氣広虫姫ひろむしには別部狭虫さむしという別名を与えて、大隅国へ島流しにしてしまいます。それでも満足せず、大隅国へ向かう途中で攻撃をしかけ

るのですが、そこにイノシシが現れ、清麻呂公を助けたという話なんです。また、清麻呂公は「万世一系の皇統がここにできた」と島流しの道中で再び宇佐八幡へお参りに寄るのですが、しもとだむら 榎田村というところに差し掛かった時に、300頭のイノシシが現れて、清麻呂公をエスコートして宇佐八幡まで随行していったという話もあります。本当は、秦氏が守ったんじゃないかなとは思いますが、これらの話からイノシシが守り神になった訳です。それで神社の拝殿前に「狛イノシシ」があるんですね。

それと、道鏡は清麻呂公を島流しにする際、よぼろの筋という、脚のちょうど膝の裏ぐらいの筋を切ってしまうんです。それで、行きは輿に乗っていったのですが、宇佐八幡へお参りした時には、不思議と足も腰も快復し立って歩けるようになっていて、それで流刑の地へ行かれたという経緯から、護王神社は足腰の神さんだといわれる訳です。

現在の護王神社は、明治19年に高雄山の神護寺から護王神社に御遷座されました。この時、普通は神社の境内には狛犬を建てますが、清麻呂公をお護りしたイノシシの像が建てられたのです。

護王神社の宮司のお仕事は御苦労が多いと思いますが、印象に残っている出来事はございますか？

私は松尾大社に長年勤めておりましたが、37年間目の時に「護王神社を復興してください」という依頼があって、平成9年にこちらに来ました。当時の護王神社はそりゃあ酷いもので、境内は荒れ果てて、真っ暗というか、すごく暗いイメージでした。その反面、「奥ゆかしく、とても神秘的なお宮ですね」と言われることもありましたが、ここは、隣の御所が神域を守っておられますので。護王神社を明るくして、たくさんの人に来てもらえるような、お参りしやすいお宮にしないといけないというのが、私が来た時からの目標です。

当時は、御所の一般公開があったりしても、護王神社には多くの方に立ち寄ってもらえませんでした。御所に来られた方に、もっと護王神社のことを御理解してもらえたらいいなと思って、平成10年に清麻呂公千二百年祭の記念事業として、烏丸通沿いの玉垣に御神徳絵巻をつくって展示したんですよ。北から南へ読みながら入口まで来ると、護王神社の由緒が分かるようになっていきます。戦前の講談社から出版された、子ども向けの絵本ですから、分かりやすいです。それと、烏丸通に面した神社の中ではあまり目立ちませんでしたので、表の烏丸通り沿いに新たな狛イノシシを設置したんです。平成19年が亥年でしたので、平成18年ぐらいのことだったと思います。そうして、だんだんとみなさんにイノシシの神様だなと知れ渡るようになりました。

境内に、すごくたくさんのイノシシグッズがあるでしょう。亥年の生まれの方がコレクションとして集めて、護王神社に奉納されたものがいっぱいあるんです。一番はじめは、浦山さんという写真屋さんが1ケースくださいました。それがはしりなんです。それから石田さんという方が、父親が集めていたというものを奉納されました。中には100点も持ってこられた方もいらっしゃいました。大切な奉納品が盗まれてしまうと困るので、鍵付きのケースの中に保管しています。中には、「宮司さん、これは間違いなく谷文晁の掛け軸です」と言ってくださ

った方もいるんです。谷文晁なんかだとある程度は分かりますが、陶器やらだと分からなくなってしまうので、箱にも管理番号をつけて蔵に保管しています。ものすごく嵩張って困るのですが、箱と物が揃ってこそですしね。今では、全部で1万点以上になります。細かいお守りなどもあるので、もう数えきれません。有難いことですね。

「経営」と言う聞こえがよくないかもしれませんが、神社を維持していくことは本当に大変です。平成9年当時はお参りが少なく、お賽銭が1日1,000円もありませんでした。

私の考えですけれど、神社もやはり何か特色がないと難しいと思います。一番はじめに護王神社に来た時は「皇統護持の神さんですよ」と言っていたのですが、そのままでは本当に維持ができませんでした。それで、民間信仰を広めていこうと思ひまして、足腰の神さまのいわれがあり、お守りも40数年ぐらい前からありましたので、足腰の御利益を、と考えたんです。以前は「お守りに足腰を付けるなんてまかりならん」と言われたこともありましたが、やっぱり現世利益ですし、自分の足腰があつてこそ元気でいられる訳ですから。それに、亥年は12年に一度ですが、足腰については毎日のことです。365日、足腰が悪くなった、腰が痛いという方はたくさんいらっしゃいますので、そっこのほうが崇敬的にたくさん来てもらえるんじゃないかな、と考えました。それで、平成18年から19年ぐらいにかけて広め始めたんです。清麻呂公の御命日である毎月21日には足腰祭を行い、怪我をなされた方や足腰の悪い方には無料で御本殿にお参り頂いています。

初めて足腰祭をした時には、お参りされる方は20,30人ほどでしたが、今では毎月130人ほど来て頂いています。遠方から、新幹線でわざわざお参りに来られた方もいらっしゃいました。それだけ一生懸命な方がおいでになるんだと、とても有難いと思いました。

他にも、北側には喜びに多いと書く「喜多門」をつくったり、なんとか結婚式も増えるように、人力車を飛騨の高山から一台購入しまして、人力車拳式をPRしたりしました。今では「人力車といえば護王神社」と言ってもらえるようになりました。私は、ここ1年くらい、病氣

がちで調子が悪くてできていないのですが、当時は結婚式もすべて私がやっておりました。「宮司さんにやってもらえて良かった」と言ってもらえたこともありました。

そうして多くの方に来て頂き、崇敬者も北海道から九州・沖縄までいらっやいまして、おかげさまで護王神社を維持していけるようになりました。今回、平成の御修造をさせて頂いています。30年ほど前に御本殿のお屋根替えをしていますが、桧皮屋根の耐久年数も過ぎるということで、平成29年2月10日に仮遷宮執行し、11月19日に本殿の御遷宮をさせて頂きます。現在は下地を銅板葺きにしている最中ですが、やっぱり護王神社としては規模が大きい事業です。8,500万円ほどの浄財を集める必要がありますので、ちょっと苦慮しておりますが、皇室を大事にしておられる方や亥年生まれの方、今の奉賛会の会長（茶道裏千家前御家元 千玄室氏）も大正12年生まれの亥年ですし、昭和10年、昭和22年生まれの方に支えて頂いています。また、段々と若い亥年生まれの人にも護王神社を支えて頂けるようになってきました。その他に、足腰が悪い人にも来て頂いて、崇敬を頂いています。護王神社も盛り上がってきたところですから、何とか私がある間に清閑な神域にしていく必要があると思っています。

文室様は切手やポストカードなどの蒐集家でもいらっしゃるのでしょうか、お気に入りのものはございますか？

切手集めは昔からの趣味です。神社関係のものをずっと集めておりまして、お参りをする度に買っていました。松尾大社や日光東照宮などたくさんあります。

護王神社に来た時に、何とかして皆さんに護王神社に親しんでもらえるようにと、まず第一に記念切手をつくったんです。つまり、自分の趣味から入ったんです。それで、その年の亥年生まれの人や七五三などで参拝にいらした方に、この記念切手のシートを差し上げました。

テレホンカードも集めています。護王神社のテレホンカードもつくりました。交通公社とコラボしたり。もう無くなってしまうのですが、鉄道のプリペイドカードもつ

くりました。

それから、お金もです。和気清麻呂公が描かれた紙幣があるんです。左肖像画だったり、裏にイノシシが描かれていたり、デザインはいろいろあります。個人の趣味として集めているものですけどね。

切手集めの趣味を新聞でとりあげてもらって、みなさんにお見せしつつ護王神社の紹介をしたこともあります。こんな風に何かきっかけをつくって、自分の趣味を通じて、いろんな方に護王神社のことを知ってもらえればいいな、と思っております。

文室様の思い出の中で、京都御苑にまつわるものはありますか？

御所にはお世話になっています。4月4日の護王大祭（例祭）と11月1日の亥子祭が関連行事ですが、亥子祭では亥子餅を搗いて、御所へ奉納に行きます。形式上、失礼ながら私が天皇の役でして、5人の女房を引き連れ、亥子餅を御所へ献上に行く訳です。例祭では蛤御門を通過して紫宸殿の前に行き、宇佐神託奏上をするんです。「我が国は開闢以来、君臣の分定まれり。臣を以って君と為すこと未だあらざるなり。天津日嗣は必ず皇緒を立てよ。無道の者は速やかに掃除すべし」という言葉を言って、みんなが二礼二拍手一拜で、紫宸殿に向かってお参りをし、帰る訳です。京都御所、京都御苑とはこうしたつながりがありますから、当たり前ですが大事にしないとイケないと思っています。

他に、京都御苑の駐車場も頻繁に借りています。最近、朱印にたくさん来てもらえます。2,3日で250人くらい来られることもありますし、バスも毎日のように来てもらえます。そのバスの駐車のため、御苑の駐車場をお貸し頂いています。駐車場が蛤御門の近くにあるから、護王神社にも来てもらえています。お祭りなどで境内に駐車して頂けない時には、御苑に駐めてくださいと言って、お参りしてもらっています。境内の駐車場は無料ですが、やはり御苑に駐めてもらうと安心ですからね。まあ30分、1時間ぐらいのことですから、御苑もある程度は潤ってもらえるのかなと思っています。神社に来て頂ければ

それだけまた崇敬者が増える訳ですから、お互いさんだ
と思います。近くに京都御苑があるので、有難いです。

お互いに、護王神社も繁盛して、御苑にもたくさんの方
に来て頂けたらいいですね。御苑の見るところはたく
さんあるんですから。拾翠亭や名庭もありますし、最近
では仙洞御所も見学することができる訳ですよ。私も
何回か行かせてもらっているんですけど、昔は手袋と
靴下をはいて入らせてもらっていました。中を観覧すれ
ば、いいものがたくさんありますね。私は「お金を頂い
たらいいやんか」とよく言ったんですけどね。今、迎賓
館は有料ですよ。やっぱりお金を頂かないといけない
と思います。あれだけの施設を維持していこうと思っ
たら大変ですから。例えば、聚楽の間でもちょっと壁を修
理しようとしたら、やはり維持管理費が必要です。護王
神社でも玉垣を修理しようと思見積りをしてもらっ
たら、とても高く、悩んでいるところです。

こんな言い方をしたら良くないのかもしれませんが、
他の社寺でも上手に宣伝をして、大流行になっていたり
しますからね。松尾大社さんでは、今の時期はヤマブキ
が咲きますが、他の時期は人が来ないからといって、昭
和48年頃、重森三玲さんに上古の庭、曲水の庭、蓬萊の
庭というものをつくってもらった訳です。「昭和には昭和
の庭があってもいい」ということで。今では、そのお庭
があるから維持ができています。こういうふうに、
先を見越して1つのものをつくらないといけないんだと
思います。

神社も一緒だと思います。何か1つのものをつくって、
今の時代では「あの時代にああいうものをつくった人が
いたから、それで今があるんやな」と思ってもらえるよ
うに、貢献できたらいいんじゃないかと思います。その
1つとして、やっぱりもっと御所との連携といえますか、
上手くお互いが繁栄できるように、何かの形で人が来て
もらえるようにしたいですね。

それと、とても印象に残っている出来事があります。
ちょうど丸太町通と烏丸通が交差する場所に交番があり
ますね。護王神社に来たばかりの頃、交番から少し行っ
たところで、私と職員と2人で、白衣・袴姿で、お迎えを
した時に、行幸に来られていた天皇陛下が我々を御覧に

なって、わざわざ車を減速して窓を下げて頂いたんです。
もう感激しましたね。ものすごく有難くて、本当に涙が
こぼれました。

ちょうど亥子祭で亥子餅を奉納する時に、陛下が大宮
御所に泊まっていたことがあるんです。奉納の時に
「我が国は開闢以来～」や「亥子の御祝儀滞りなく申し取
め候」の言葉を言うんですが、その時にでもね、声が聞こ
えて、あのお餅を召し上がっていたとしたら、有難いなあ
と思ったことがあります。

護王神社がだんだんよくなって、皇室関係の方々にも
「あの神社、和氣清麻呂公をお祀りしているし、一度行っ
てみたい」と思ってもらえるような神社にしたいんです。
私どもの方から「来てください」と言うのではなくて、
自然と、「あそこに行きたいなあ」というふうに思っ
てもらえたら、本当に有難いと思っています。皆様にとっ
ても散歩の途中にでも、「ちょっと護王さんに行ってこよう
か」と言って頂ける神社にしたいといけません。

京都御苑で好きな場所、 好きな時期などありますか？

私は全部好きです。全部好きというか、春は春、夏は夏、
秋は秋でね。御苑の中は、しょっちゅう通らせてもらっ
ていますが、どの時期も好きですね。春には桃を見させ
てもらい、桜の花も全部見させてもらっていますが、特に、
閑院宮邸の前の百日紅、あの花は大好きです。桜は、三日
見ぬ間に散ってしましますが、百日紅は百日間持ちます
からね。

護王神社にも百日来てもらおうと思って、ものすごく
綺麗な百日紅を植えたんです。でも、なかなか大きくな
りませんし、いい花を咲かせようと思うと難しいですね。
「宮司さん、これ、樹の上がつんでいるからとちやいます
か。百日紅はもうちょっと日が当たるとあかんのちや
いますか」というアドバイスを受けながら育てています。
それにしても、閑院宮邸の前にある百日紅を見ていると
「綺麗ななあ、あれが欲しいなあ」と思いますね。僕が一
番好きなのは、百日紅です。

京都御苑の今後について、御意見など ございましたら自由にお聞かせください。

私から要望があるとすれば、結婚式の際に御苑で写真を撮るくらいならいいですよ、として欲しいですね。今は管理事務所の許可が要りますから、人力車で蛤御門の辺りを廻って、自然の流れで「ああ、こんなところもいいなあ」とおおっぴらに写真を撮ることはできませんので。ちょっと大目に見てもらえると有難いなあ、というのが私の希望・要望ですね。

あと、外国人さんは難しいですね。どこまで言っているのか。11月1日に、亥子餅の儀式で御所清所門の中に入れてもらいますが、入るためには住所や生年月日を登録する必要があります。以前は、登録などは関係なくザッとみんなで入っていたのですが、この頃は規制がありますのでできません。ところが、外国人さんは分からないのでしょうか、一緒についてきてしまうんです。今まででしたら、「まあまあよろしいわ」と入れてもらっていたんですけど、線引きをするというのは、本当になかなか難しいですね。儀式から護王神社に帰ってきましたら、外国人さんにも自由にお酒を飲んでもらいますけどね。とは言え、威厳を保たないといけない部分もありますし、あんまり気安く言うのも良くないでしょうし、難しいとこだな、と思っています。

2017年4月25日インタビュー

聞き手：田村省二、積田真希子

○文室 隆紀さまプロフィール○昭和35年、京都国学院卒業後、松尾大社に37年間奉仕し、平成9年より護王神社の宮司に就任。切手やポストカードなどの蒐集家で、自身のコレクションを神社の広報や展示物に活用し、注目を集めている。